

**エッ！私は水産課ですか？**

「上田さんでは気仙沼市では勤まらないから、1週間で帰ってくるのではないか？」という悲観論や、「上田さんが4月に再雇用で来てもいいように、机はそのままにしておいてあげるから」という同情論が渦巻く中で、道路保全事務所での最後の1日（1月31日）が終わりました。

2月1日午前10時から、宮城県庁で辞令の発令式が行われました。今回（2月1日付け）の任期付派遣職員の採用者は21名でした。代表者が村井県知事から辞令をもらいました。その後、気仙沼市の職員の方が2人で出迎えに来てくれていて、市の仮設住宅まで送迎してくれました。

私も、役に立たなくて帰されるのではないかと、弱気になっていましたが、県と市では、「釣った魚は逃がさない（一度採用した職員は絶対に帰さない）」という方針があるみたいなので、安堵しました。

市の総務課の担当者から前もって、「上田さんの配属先は水産課です」という連絡がありました。私はその時思わず、「エッ！私は水産課ですか？私には場違いだと思いますが」とツイ言ってしまいました。今回、気仙沼市には23人が派遣されました。そして、土木職の多くが土地区画整理をする用地課と下水道課で、水産課は私が1人だけでした。

担当者の方には、私のこの消極的な言葉が頭に残っていたみたいで、会うと開口一番、「気仙沼市には、31の漁港があります。そしてその大部分が津波の被災に遭いました。上田さんには、この漁港の復興に手を貸してもらいたいのです。」と言われました。私は単純明快？なので、担当者の方の熱意につられて、「私で役に立つのであれば、水産課で精一杯頑張ります。」と思わず言ってしまいました（「ただし私のできる範囲内で」を付け足さなかったことを、今でも後悔しています。）

後日、歓迎会の席で、係長から聞いた話では、「気仙沼市は、水産業で成り立っている。今は副市長は県から来るが、それまでは、水産課長が歴代副市長になっていた。」とのことでした。

そう言えば民宿に泊まった時も、民宿のオバサンが「ここは元は本吉町で、公民館も20あって、コミュニティが活発だった。気仙沼市と合併した結果、気仙沼市は住民のことよりも、魚のことが熱です。」と言って嘆いてました。

気仙沼市は、三陸では第一の漁港をもつ街です。魚では、かつお・さめ類（ふか）・さんまの水揚げ量が多いです。水産加工品では、ふかひれとイカの塩辛が有名です（現物を送れという声アリ）。

そして、3・11では、漁港と漁村の集落や水産加工場の大部分が被災してしまいました。漁師さんの大部分は、家だけではなく、船や養殖場が被害に遭いました。また、水産加工場で働いていた人たちは、建物が再建されて、再び働きに出られる事を、首を長くして待っています。

私の係は、漁港漁場係です。係員は係長を含めて11人で、その内市の固有職員は3人で、各自治体からの派遣職員が8人です。その中で、技術職は9人です。職場の帰宅時間は午後7～8時だそうです。道路保全事務所の時は、5時20分に帰っていたので、体がもつのか心配です。（その前に、仕事が勤まるのかどうかの方がもっと心配ですが！）

気仙沼市に来て、2週間が経ちます。夜は零下5℃くらいですが、昼間は5℃くらいになって、思ったより寒くはありません。晴れの日も多いです。雪も降りますが、仙台や一関市と違って、今のところ積りません。私は、多くの方から肌着・帽子・手袋・マフラー等をもらいました。しかし、今のところ、肌着しか身に付けていません。